

RELAY

われら仲間

vol.141

東洋農機株式会社

本社帯広市西22条北1丁目2番5号
TEL:0155-37-3191 FAX:0155-37-5399
http://www.toyonoki.co.jp

6代目・代表取締役社長

やまだ まさのり
山田 政功さん

製造部生産課溶接係

しらかわ ひでき
白川 英希さん



創業満100周年を目前に白川さんが全国大会出場へ!!山田社長をはじめ社員全員が仲間の快挙、喜ぶ。『がんばれ、白川さん!』



一〇〇周年を記念して作製したロゴは、大地を耕し未来へと走る農業機械をイメージして作りしました。中央を横切る弧状のラインは、馬鈴薯など「大地の恵み」を表現しています。

北海道農業の発展と共に歩んできた東洋農機は、平成21年2月に記念すべき創業満一〇〇周年を迎える。創業以来、日本最大の食料供給基地である北海道に拠点ネットワークを展開し、農業機械の開発・製造販売を通じて農作物の生産性や品質向上に貢献してきた。

畑作用大型作業機械を中心に、畑を耕す「プラウ」、土塊を砕土すの「ディスクハロー」、防除作業のための「フームスプレーヤ」、収穫機の「ポテトハーベスタ」及び「ビートハーベスタ」

「記念すべき節目の年を迎えられるのは、支援して下さった関係者と惜しみない努力をされた先代や創設者の方々など、東洋農機に携わって

いたいただいた全ての皆様のおかげです。そして何よりも同じ志でがんばってくれる社員がいたからこそ迎えられる一〇〇年だと痛感しています。」

（山田社長）

同社の営業所及びサービスセンターは道内8カ所。帯広市西22北1の本社を拠点に、近年では本州・九州地区の畑作機械開発にも着手し、あわせて海外数カ所への出荷実績も伸ばしている。その中で今年度は自社製造農業機械の中国輸出で道内最大規模の輸出量を記録した。

中国に輸出した農業機械は、プラウ、フームスプレーヤ、ビートハーベスタなど約一〇〇台。現地の市場調査を経て北京に本社を構える大手食

品加工企業と代理店を通じて契約した。今後定期的な社員を派遣しながら、万全のメンテナンズ事業と現地の人材育成に力を注ぐ。

また、その他には「明日の日本を支える元気なモノ作り企業一〇〇社」に選定されるなど、これまでの意欲的な開発事業が評価され、記念すべき一〇〇年を目前に朗報が続いている。

十勝農業の発展と共に歴史を重ね、常に最新のテクノロジーを追求し駆使し続ける東洋農機。アグリパートナー（＝農業者の皆様の良きパートナー）を企業理念に、これからも一五〇年…二〇〇年へと大きく夢を広げる。

来年2月に創業満一〇〇周年を迎える東洋農機。明治42年2月に山田農機具製作所として創立し、昭和42年4月、現在の東洋農機株式会社に変更、以来、十勝農業の歩みと共にたゆみない歴史を刻んできた。その記念すべき一〇〇周年の節目を目前に、同社製造部生産課・白川英希さんの溶接技術が認められ、見事、全国大会出場への切符を手にした。山田社長をはじめ社員全員が、その栄誉を称えている。

白川さんが出場する全国大会は、10月18・19日に福井県で開催される「第54回全国溶接技術競技会」。札幌市で開かれた平成20年度 社団法人日本溶接協会北海道地区溶接技術競技大会で優秀賞に輝き、同社では14年ぶり3回目の快挙を得た。

受賞部門は、2部門あるうちの「半自動アーク溶接の部」。今回、全国大会への夢を果たした白川さんは、入社後2年連続で全道大会への出場を経験し、3度目の挑戦で念願の賞を手にした。

「溶接は機械の最も大切な要。その要の技術が高く評価され、非常にうれしいです。」

また、山田社長は「全国大会では口頃の技術を思う存分、発揮してほしいと願っています。悔いのない出場を！」と白川さんを励まし、出場を間近にした白川さんも「全力を尽くしたいと思っています。誰にでも頼られる存在を目標に、これからもがんばります。」と目を輝かせる。



全道大会での賞状とトロフィーを手に喜びの白川さん。



溶接する白川さん。若手ながらも技術はハイレベルだ。



ジャガイモ収穫期に大活躍するロングセラーのポテトハーベスタ。日本一のシェアを誇る。

おかげさまで
北の大地に100年
創業1909年

100th

21世紀もベストアグリパートナー
東洋農機株式会社
TOYONOKI